

ヒトハリザトウムシ

岡山県：準絶滅危惧

ザトウムシ目

*Psathyropus tenuipes* L. Koch

環境省：準絶滅危惧

カワザトウムシ科

選定理由

海岸の砂浜をともなう海食崖や河川河口のヨシ原などに生息するが、人工海岸化などで生息適地が著しく減少している。

存続を脅かす要因

海岸開発、河川開発、湿地開発

分布状況

トカラ海峡以北の日本各地。西日本では厳密に海岸や河川感潮域に限定される。

県内では、岡山市旭川下流感潮域、瀬戸内市牛窓町錦海塩田跡、岡山大学理学部付属牛窓臨海実験所で生息が確認されている。

生息情報

体長5～6mm程度。体は灰～暗褐色で腹部第2背板上にやや短めの1棘がある。北日本では内陸にも出現するが、西日本では生息地は海岸と河川感潮域に限定される。年1化卵越冬で成体は6月下旬から12月まで見られる。

特記事項

本種はB染色体とよばれる特殊な過剰染色体を多数もち、染色体数は集団内でも集団間でもばらつく。瀬戸内海の集団は概してB染色体が少なく、牛窓の集団では平均2.2個。

文献番号 144, 152

(鶴崎展巨)



撮影：鶴崎 展巨



アカサビザトウムシ

岡山県：留意

ザトウムシ目

*Gagrellula ferruginea* (Loman)

環境省：該当なし

カワザトウムシ科

選定理由

旭川付近を境界として西から東に向かって染色体数が2n=12から14に分化。旭川中流域（久米郡付近）には2n=12/13/14の交雑集団がみられる。岡山県中部以南の生息地は少ない。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

青森県以南の本州、四国、九州、屋久島。

県内では、低山から中国山地脊梁までに広域に生息する。

生息情報

体長5mm内外で腹部第2背板に1棘がある（岡山県内で同様の棘のある種は、他にオオナガザトウムシとヒトハリザトウムシのみ）。普通種で、成体は7月上旬から9月にかけて林内の樹幹や草本上に多い。県内では北東部に近畿型（歩脚基部が黒化、背の黒縦斑は不明瞭）、それ以外には大山型（歩脚基部が黒化せず、体背面の黒縦斑が明瞭）が生息。染色体数は旭川以西で2n=12、以東は2n=14に変化するが美咲町付近には染色体数が多型となる集団が見つかる。

特記事項

普通種だが、染色体交雑帯にある美咲町付近の集団が要注意。

文献番号 148

(鶴崎展巨)



撮影：鶴崎 展巨

